

改訂: 3.0 日付: 23.07.2015

EC規則1907/2006 (REACH) 及び1272/2008 (CLP) & 2015/830 によれば

www.vishaypg.com

1. セクション 1: 物質/混合物の名称および企業の名称

1.1 製品識別名

製品名	EPY-500 Part B
化学物質名	混合物。
CAS 番号	混合物。
EINECS 番号	混合物。
REACH 登録番号	割り当てられていない。

1.2 当該物質または混合物の記載されている重要用途および 指導対象の用途

記載されている用途	PC14 金属表面処理用製品 (電気めっき用製品を含む)。
~ に対して助言された用途	知られていない。

1.3 安全性データシート供給者の詳細

会社情報	VISHAY MEASUREMENTS GROUP UK LTD Stroudley Road Basingstoke Hampshire RG24 8FW United Kingdom
電話	+44 (0) 1256 462131
F a x	+44 (0) 1256 471441
E メール(担当者)	mm.uk@vishaypg.com

1.4 緊急電話番号

(00-1) 703-527-3887
CHEMTREC

2. セクション 2: 危険有害性の要約

2.1 物質または混合物の分類

2.1.1 欧州 CLP 規則 (No.1272/2008)	皮膚感作性 区分 1; H317 眼刺激性物質 区分 1; H318 呼吸器感作性 区分 1; H334
--------------------------------	--

2.2 表示要素

製品名 欧州 CLP 規則 (No.1272/2008) によれば

危険性を表す絵文字



注意喚起語

危険

改訂: 3.0 日付: 23.07.2015

EC規則1907/2006 (REACH) 及び1272/2008 (CLP) & 2015/830 によれば

www.vishaypg.com

次を含有する:	1,2,4,5-Benzenetetracarboxylic Dianhydride
危険有害性情報	H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。 H318: 重篤な眼の損傷。 H334: 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ。
危険有害性情報	P280: 保護手袋/保護服/保護眼鏡/保護面を着用する。 P285: 換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。 P304+P341: 吸入した場合: 呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 P342+P311: 呼吸器症状が現れた場合: 中毒センター、医師、または、<...>に連絡すること。 P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 P310: 直ちに中毒センター/医師/<...>に連絡すること。
追加情報	なし。
2.3 他の危険有害性	空气中で爆発性の粉じん雲を形成することがある。

3. セクション 3: 組成/成分情報

3.2 混合物

EC 分類 欧州 CLP 規則 (No.1272/2008)

物質の化学的特定名	%W/W	CAS 番号	EC 番号	REACH登録番号	危険有害性情報
Benzene-1,2:4,5-tetracarboxylic dianhydride	< 81	89-32-7	201-898-9	割り当てられていない。	皮膚感作性 区分 1; H317 眼刺激性物質 区分 1; H318 呼吸器感作性 区分 1; H334
Magnesium silicate talc	< 18	14807-96-6	238-877-9	割り当てられていない。	分類されていない。
1,2,4,5-Benzenetetracarboxylic Acid	< 2	89-05-4	201-879-5	割り当てられていない。	分類されていない。

H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。 H318: 重篤な眼の損傷。 H334: 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ。

4. セクション 4: 応急処置



4.1 応急処置の説明

吸入

吸入した場合：呼吸が困難な場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸器症状が現れた場合：中毒センター、医師、または、に連絡すること。体調に異変があった場合は、中毒センターまたは医師に連絡すること。

皮膚接触

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。汚染された衣服は徹底的に洗濯する。刺激があらわれ持続した場合、医師の手当てを受けること。

目の接触

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに中毒センターまたは医師に連絡すること。眼科医と相談してください。

摂取

飲み込んだ場合は、水で口をすすがせる。(但し、意識がある場合のみ)。水をコップ二杯のむこと。牛乳またはアルコールを飲ませないでください。無理に吐かせない。悪い症状が現れたら、医師の治療を受ける。

4.2 最も重要な症状および作用（急性および遅発性）

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。重篤な眼の損傷。吸入するとアレルギー一、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ。

4.3 医師の手当てと特別な処置が直ちに必要な状態

症状によって処置する。化学的な目のやけどには拡張洗浄が必要になる場合があります。

5. セクション 5: 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

周辺の火災に適切な。炭酸ガス、粉末または泡消火器、水噴霧で消火する。

不適切な消火剤

ウォータージェットを使用しない。直接水を噴射すると火災が広がる可能性があります。

5.2 当該物質または混合物に起因する特別な危険性

火災の時分解されて、有毒な煙を発生する：一酸化炭素、二酸化炭素。空気中で爆発性の粉じん雲を形成することがある。

5.3 消防士へのアドバイス

消火作業員は自給式呼吸器を含む完全な保護服を着用すること。フュームを吸入してはならない。火災の場合、容器に水を噴霧して冷却する。水路や下水への混入を避けること。

6. セクション 6: 漏出時の措置

6.1 人体に対する予防措置、保護具および緊急時措置

適切な換気を確保する。安全に対処できるならば漏洩をとめる。安全に対処できるならば全ての着火源を取り除く。粉塵を吸入してはならない。皮膚、眼および衣服との接触を避けること。必要な個人用保護具を使用する。次の項を参照: 8.

6.2 環境的予防措置

環境に排出しないようにする。排水路、下水道または水路に入らないようにする。

- 6.3 封じ込めと清掃のための方法および資材 粉じんを発生させないように流出物を掃除する。廃棄用の容器に移す。この素材と容器は、危険廃棄物として廃棄すること。
- 6.4 他のセクションの参照先 次の項を参照: 8, 13

7. セクション 7: 取扱いおよび保管上の注意

- 7.1 安全な取り扱いのための注意事項 適切な換気を確保する。粉塵を吸入してはならない。皮膚、眼および衣服との接触を避けること。必要な個人用保護具を使用する。次の項を参照: 8. 本製品を取り扱っているときに、飲食、喫煙を行なってはならない。休憩前及び作業後には手を洗うこと。湿気を遮断する。
- 7.2 安全な貯蔵のための条件 (不適合条件を含む)
- 保管温度 常温の。
- 保管期間 普通の状態安定。
- 混触危険物質 次のものから離して保管する。引火性。液体、酸類、アルカリ類。と強酸化物類。水または水蒸気を含んだ空気と接触すると不透明で腐食性のヒュ<€が発生します。
- 7.3 具体的最終用途 PC14 金属表面処理用製品 (電気めっき用製品を含む)。次の項を参照: 1.2

8. セクション 8: 暴露防止及び保護措置

- 8.1 管理指標
- 8.1.1 職業暴露限度 確立されていない。
- 8.1.2 生物学的限界値 確立されていない。
- 8.1.3 PNEC および DNEL 確立されていない。
- 8.2 暴露管理
- 8.2.1 適切な工学的管理 適切な換気を確保する。または適切な封じ込めを行うこと。職業暴露限度の規定に基づいて、空中濃度を管理しなければならない。きれいな水の入っている洗眼液の瓶を携帯する。
- 8.2.2 個人用保護具 (PPE) などの個人保護措置 化学物質取り扱いのための一般的な衛生手段が適用できる。粉塵を吸入してはならない。皮膚、眼および衣服との接触を避けること。休憩前及び作業後には手を洗うこと。作業着は分けて保管すること。汚染された衣服は徹底的に洗濯する。作業場所では飲食、喫煙を行なってはならない。

目/顔面の保護



皮膚の保護

側板付き保護メガネ (EN166) を着用すること。

手の保護: 不浸透性手袋を着用すること。浸透の問題を避けるため、手袋は定期的に交換すること。手袋素材の浸透時間: 手袋メーカーの情報を参照。

改訂: 3.0 日付: 23.07.2015

EC規則1907/2006 (REACH) 及び1272/2008 (CLP) & 2015/830 によれば

www.vishaypg.com



呼吸器の保護



熱の危険性

体の保護: 防塵保護服を着用すること。長靴、白衣、前鞆またはつなぎ服を含む不浸透性の防護衣を適宜着用して、皮膚に接触しないようにしてください。

工程に粉じんまたは蒸気が発生するような場所での作業が含まれる場合、適切な呼吸用保護具を着用する。(推奨: 以下の場合/以下に対して呼吸用保護具が必要: > 10 mg/m³ 粉じん。)

該当なし。

8.2.3 環境暴露コントロール

環境に排出しないようにする。

9. セクション 9: 物理的および化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性についての情報

外観	粉末。
におい	資料なし。
臭いの閾値	資料なし。
pH	資料なし。
融点/凝固点	資料なし。
初留点と沸騰範囲	資料なし。
引火点	>93.3°C
蒸発速度	該当なし。
燃焼性 (固体、ガス)	非引火性。
上限/下限可燃性または爆発限界	該当なし。
蒸気圧	資料なし。
蒸気密度	資料なし。
相対密度	1.81 (H ₂ O = 1)
溶解度	資料なし。
分配係数: n-オクタノール/水	資料なし。
自然発火温度	資料なし。
分解温度	資料なし。
粘度	資料なし。
爆発性	非爆発性。
酸化性	非酸化性。

9.2 その他の情報

なし。

10. セクション 10: 安定性および反応性

10.1 反応性

普通の状態で安定。

改訂: 3.0 日付: 23.07.2015

EC規則1907/2006 (REACH) 及び1272/2008 (CLP) & 2015/830 によれば

www.vishaypg.com

10.2	化学的安定性	普通の状態安定。
10.3	危険な反応の可能性	空気中で爆発性の粉じん雲を形成することがある。水または水蒸気を含んだ空気と接触すると不透明で腐食性のヒュ<€が発生します。
10.4	避けるべき条件	熱と直射日光を避ける。湿気を遮断する。
10.5	混触危険物質	次のものから離して保管する。引火性。液体、酸類、アルカリ類。と強酸化物類。
10.6	危険有害性分解生成物	火災の時分解されて、有毒な煙を発生することがある。炭素酸化物。

11. セクション 11: 有害性情報

11.1 毒性に関する情報 (製剤/混合物中の物質)

急性毒性

摂取

これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

急性毒性推定混合計算: 推定 LC50 > 2000 mg/kg 体重/日。

吸入

これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

急性毒性推定混合計算: 推定 LC50 > 5 mg/l。

皮膚接触

これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

急性毒性推定混合計算: 推定 LC50 > 2000 mg/kg 体重/日。

皮膚腐食性/刺激性

これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

眼に対する重篤な損傷/眼刺激性

眼刺激性物質 区分 1: 重篤な眼の損傷。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性 区分 1: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

呼吸器感作性 区分 1: 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ。

生殖細胞変異原性

これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

発がん性

これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

生殖毒性

これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

特定標的臓器への毒性 (単回暴露)

これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

特定標的臓器への毒性 (反復暴露)

これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

吸引性呼吸器有害性

これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。

11.2 その他の情報

なし。

12. セクション 12: 環境影響情報

12.1	毒性	これまでに得られているデータから、この分類基準には該当しない。 推定 混合物。 LC50 >100 mg/l (魚類)
12.2	残留性および分解性	水中で加水分解されることを示す証拠がある。
12.3	生物蓄積性	データなし。
12.4	土壌中の移動度	この物質は土壌中での移動性が低いと予想される。
12.5	PBT および vPvB 評価の結果	PBT または vPvB に分類されない

改訂: 3.0 日付: 23.07.2015

EC規則1907/2006 (REACH) 及び1272/2008 (CLP) & 2015/830 によれば

www.vishaypg.com

12.6 その他の有害な作用 知られていない。

13. セクション 13: 廃棄上の注意

- 13.1 廃棄物処理法 本物質の容器が空の場合、製品の残留物が残っていると有害であることがあります。この物質や容器は有害廃棄物として処理する。法律に従い、前処理後にしかるべき危険廃棄物焼却施設に送ること。
- 13.2 追加情報 内容物を国、都道府県、市町村の法規に従って廃棄する。

14. セクション 14: 輸送上の注意

危険物輸送に関する UN 勧告(the United Nations 'Recommendations on the Transport of Dangerous Goods')によれば、分類されていない。

- ADR/RID / IMDG / IATA
- 14.1 国連番号 該当なし。
- 14.2 輸送危険分類 該当なし。
- 14.3 輸送危険分類 運送時に危険物として分類されていない。
- 14.4 輸送危険分類 該当なし。
- 14.5 環境に対する危険 海洋汚染物質として分類されていない。/ 環境的に有害な物質。
- 14.6 使用者に対する特別な注意事項 次の項を参照: 2
- 14.7 MARPOL 73/78 Annex II および IBC コードに準拠したバルク輸送 該当なし。
- 14.8 追加情報 なし。

15. セクション 15: 適用法令

- 15.1 特に当該物質または混合物に関する安全性、健康および環境についての規制/法律
- 15.1.1 EU 規制
高懸念物質 (SVHCs) なし。
- 15.1.2 国の規制
Wassergefahrdungsklasse(ドイツ) 水質危険クラス: 無害の原料
- 15.2 化学物質安全性評価 資料なし。

16. セクション 16: その他の情報

以下の項には改訂または新しい内容が含まれる: 1-16.

参考文献: 既存の安全データシート(SDS), 調和した分類 1,2,4,5-Benzenetetracarboxylic Dianhydride (CAS# 89-32-7), 既存の ECHA 登録 1,2,4,5-Benzenetetracarboxylic Acid (CAS# 89-05-4) と以下の分類・表示インベントリ と Magnesium silicate talc (CAS# 14807-96-6).

改訂: 3.0 日付: 23.07.2015

EC規則1907/2006 (REACH) 及び1272/2008 (CLP) & 2015/830 によれば

www.vishaypg.com

物質または混合物の分類 欧州CLP規則 (No.1272/2008) によれば	分類手順
皮膚感作性 区分 1; H317	閾値計算
眼刺激性物質 区分 1; H318	閾値計算
呼吸器感作性 区分 1; H334	閾値計算

注釈

LTEL	長期暴露限界
STEL	短時間暴露限界
DNEL	求められた無影響量
PNEC	推定無影響濃度
PBT	PBT: 難分解性、生物蓄積性、毒性
vPvB	高難分解性、高生物蓄積性

研修アドバイス: 検討事項は、より高度なレベルの予防が必要になるかどうか決定するため、作業手順に関わることや将来的な被曝の程度に影響を及ぼします。

免責事項

記載の情報もしくは他の方法で提供された情報は最善の知見に基づき、誠意を持って提供しております。使用者は、これを参考として自らの責任において個々の取り扱い等の実態に応じ、適切なる措置をお取り願います。Vishay Precision Group はいかなる用途に対しても製品の適合性に関して保証するものではありません。法による場合を除き、暗黙の保証や条件 (法的なあるいはそうでない) はございません。Vishay Precision Group は、この情報に起因する損失または損害の責任を負うものではありません (欠陥製品が原因で死亡もしくは負傷し、そのことが証明された場合を除き)。特許、著作権および意匠のもと自由な使用权があるということではありません。

拡張安全性データシート(eSDS) の付録

利用可能な情報なし。